

楽しくなるほどよく分かる 授業づくり

～ICTで分かりやすく伝えて～

福井県勝山市立村岡小学校

〒911-0035
福井県勝山市郡町2丁目9-1

<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/school/e-muroko/muroko/mein1.htm>

1 はじめに

本校は、平成22年度県視聴覚研究大会の発表校に指定されるまで、ICT機器を活用した授業を実践していなかった。視聴覚機器といえばプロジェクターが2台あるだけで特別な常時以外ほとんど利用していなかった。このような環境の中、電子黒板が整備され、授業での活用が進められた。さらに、勝山市よりプロジェクターや実物投影機、デジタルカメラの備品配備を2年間の専属使用として整備された。

当初、配備されたプロジェクターや実物投影機、デジタルカメラを「どのように使うか」「ICTを使った授業」を考えていたが、指導助言者の横浜国立大学の野中陽一准教授(当時)より「まず慣れることが必要であること」を御指導いただき、「いつでもだれでもどこでも」を合い言葉に研究を始めた。慣れれば慣れるほど授業への活用が広がっていった。ICTの活用を平成23年度県視聴覚研究大会研究発表会終了後も続けるために、パナソニック教育財団の第37回特別研究助成校に応募申請を行った。その結果、平成23年度からは、富山大学人間発達科学部の高橋純准教授の御助言御指導も受けることができるようになり、ICT機器の活用への考えが明確になっていった。

平成23年度は日常の授業の中で分かりやすく伝えて児童の学習意欲を高めるためには、どのようなICT活用が効果的かを実践することにした。これは、ICTの活用が主ではなく、教師の日頃の授業構成を主にして研究実践することである。さらに平成24年度は「日常の授業のどの場面でICTを活用することが児童の理解を深めるのか」を研究実践することにした。そのためには、教師や児童が日常的に授業で使う教科書をより深く研修し実践を進めていった。

2 研究の目的

「できなかったことができる」「分からなかったことが分かる」「見えなかったことが見えてくる」知的な驚きと楽しさのある授業で、学習意欲・基礎基本の学力・伝え合う力の向上を目指し、学習内容の理解を深める。

<平成23年度>

○児童が興味関心を持って学習活動に参加できるように、児童の意欲を高め、学習内容を分かりやすく伝える方法を工夫する。

前年度の「日常的にICTを活用する」実践から、児童も教師もICT機器に慣れ、黒板と同じ感覚になってきた。何をどのように提示すれば、学習内容が分かりやすく伝えられ、児童自身の学習時間を増やすことができるのかを考えて実践を進めた。

<平成24年度>

○児童が楽しく活動し、理解を深めるために教科書の拡大提示方法を考え、授業に活かす。

児童の理解を深めるために、ICT機器の良さを活かした授業づくりを進めた。

3 研究の方法

<研究主題へのアプローチ>

(1) 興味・関心を高めるために日常的に活用する。

「いつでも だれでも どこでも」教科書やノートの拡大提示の方法を工夫する。

(2) 意欲を高めるために分かりやすく伝える。

拡大提示する教材や場面など授業の流れに沿った拡大提示と発問指示を吟味する。

(3) 児童の理解を深めるためには授業の目標に応じて教科書の拡大提示する部分を選択する。

授業の流れや拡大提示する部分を教科書研修によってより理解を深める。

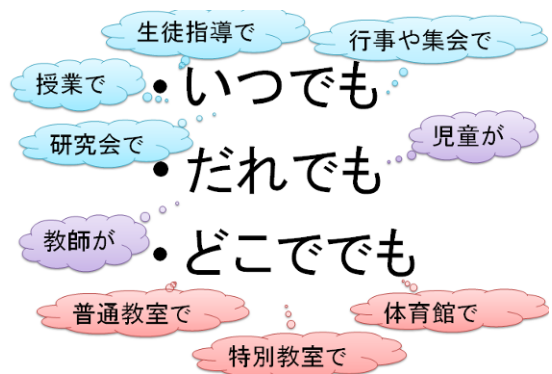
(1) (2)は児童も活用し、機器に慣れさせる。特に(2)では児童の発表時にもICTを活用する。

(3)においては研究主題を意識した実践を行う。

4 研究の内容

(1) 興味・関心を高めるための「日常的な活用」

ICT機器を日常的に活用するためには、いつでも使えるようにしておく必要がある。そのために、平成22年度から「いつでも、だれでも、どこでも」を合い言葉に実践を重ねてきた。児童が登校してから下校するまでプロジェクターや実物投影機の電源を入れておいた。そして、教科書のページや児童のノート、児童作品、演示実験など拡大するとよいと思われるものを何でも拡大してきた。その結果「児童の視線が集中する」「児童の興味・関心が高まる。」「見る・聞く両方から情報が得られる。」など興味、関心が高まる児童の様子が見られるようになってきた。

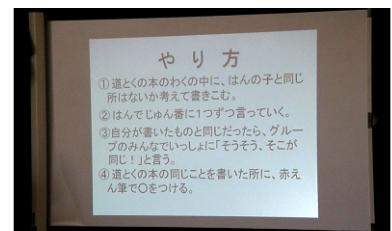


(2) 意欲を高めるための「分かりやすい伝え方」

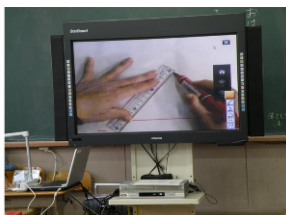
興味関心が高まってきた児童に学習内容が分かりやすく伝われば、意欲をより高めることにつながる。そこから、授業は楽しいと感じ、より意欲的に学習を行うようになると考えた。また、発問や指示をより短くすることで児童の体験活動の時間を増やすことにつながる。

① ICT機器の有効な使い方

短い発問や指示は「映して」「例示して」「見せたいところだけ」「書き込んで」などの操作を使って行う。



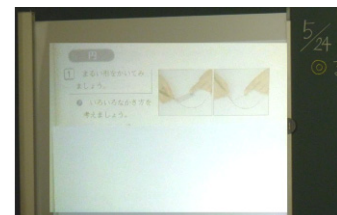
スクリーンで伝える



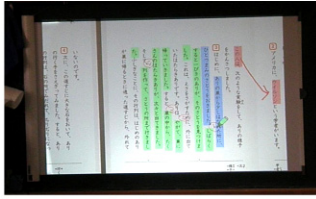
例示して



指し示して



見せたいところだけ



書き込んで

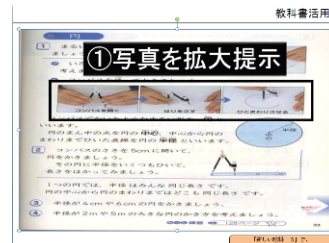
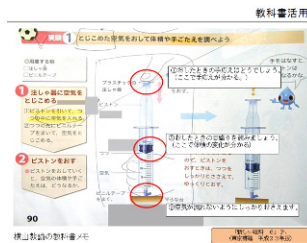
このような操作を行って提示するだけで、児童はどこに注目すればよいかはすぐに分かる。拡大は教師にとって容易で使いやすい提示方法であるが、どこをどのように拡大するか、どこに注目して欲しいかが明確でなければ、見せる効果はあまりない。また、説明に要する時間が短くてすむことで児童の集中を持続させることが可能である。



②板書の方法

黒板は、授業で記憶にとどめて欲しいことを記録するために使用する。つまり、授業の課題や内容、重要な語句、児童の発表内容などはICTの一時的な提示ではなく、授業中にいつも確認できる状態にしておくことが、必要である。この板書により児童が分かったと自覚できる要因となると考える。

(3)児童の理解を深めるための「教科書の拡大」



分かりやすく提示しようと研究を進める過程で、どこをどのようにどのタイミングで提示することが児童にとってより分かりやすく、学習の理解を深めることができるのかを検討することが多くなってきた。日常的に使っている教科書に注目し、そのより効果的な拡大方法を研修することにした。

5 研究の経過

- 平成23年度 5月19日(木) 市教育委員会学校訪問日 初任者研究授業 市内教員に公開授業
- 6月29日(水) 校内授業研修会 全学級公開 野中先生・高橋先生からの御指導御助言 市内教員に公開授業
- 9月22日(木) 授業研修会 野中先生, 岸先生からの御指導御助言
- 10月11日(火) 市教育委員会学校訪問 市視聴覚教育分科会教員授業参観
- 10月28日(金) 福井県視聴覚教育研究大会 全学級公開 福井県内小中学校教員参加
- 11月25日(金) 校内授業研究会 3学年公開 高橋先生からの御指導御助言
- 平成24年度 1月23日(月) 校内授業研究会公開授業 高橋先生の御指導御助言 奥越地区小中学校の教員に公開授業
- 5月24日(木) 校内研究会 高橋先生の学校訪問指導 全学級が提案授業を行った。
- 6月 1日(金) 市教育委員会学校訪問日 市教育委員会指導主事によるICT機器活用授業参観と研究会
- 6月11日(月) 校内授業研究会 低学年公開授業
- 6月18日(月) 校内授業研究会 低学年, 高学年各1学級公開授業
- 6月20日(水) 奥越小教研公開授業 5年社会科, 6年家庭科を公開

8月 4日() 福井県教育研究所の高橋先生講師の講座に本校研修会として全員参加

10月25日(木) 高橋先生の学校訪問指導

「理解を深めるためのICT活用」を御指導いただく

11月29日(木) 市教育委員会学校訪問

市教育委員会指導主事によるICT機器活用授業参観と研究会

12月 3日(月) 高橋先生・野中先生の学校訪問指導

「普通の授業でのICT活用」と「研究発表会に向けての御指導と打ち合わせ」

平成25年2月22日(金) 第37回パナソニック教育財団特別研究指定校 研究発表会

会場 村岡小学校および福井県立恐竜博物館

6 研究の成果と今後の課題

平成23年度の研究 意欲・関心を高める 「ICTに慣れる～分かりやすい伝え方」

平成22年度から「いつでも、だれでも、どこでも」を実践して、ICTを活用しながら、教師も児童も楽しく授業ができるようになった。

☆分かりやすく伝えることで、学習活動の時間を確保することができた。そのために、ICTの活用を工夫するようになった。児童は聞いている人に分かりやすく伝えようとICTを活用するようになった。

その成果から、よく分かる・分かりやすいと感じている児童が多くなってきた。また、授業や一単元での児童の活動時間が増えると共に、発表することへの抵抗がなくなり、その楽しさを味わう姿が見られるようになった。しかし、課題として次のことが言える。

★児童は学習内容の理解を深めることができず、知識理解を応用的課題や発表に発揮することはできていないことが明らかになった。

平成24年度の研究 児童の理解を深める 「分かりやすい伝え方～分かる授業」

そこで、まず、理解を深めるために、授業中に使うノートや教科書の拡大において「何のどこを、どのように見せるか」を考えながら利用することにした。そこで教科書を拡大して分かる授業をめざした。

- ・教科書は教師も児童も同じものを持っている。
- ・教科書は読んだだけでは理解を深めることはできない。

この2点から、教科書をいかに拡大するかを研修することにした。

☆その結果、学習内容に合ったICTの活用ができてきた。

☆普通の授業でICTの有効的な活用ができるようになったことで、児童にとっての分かる授業を実践できるようになった。

★課題としては、子どもの分かり方に合わせた教科書研修を行うことが必要である。

★学習内容の指導重点項目をさらに精査し、ICT活用の効率化を図る。

以上の成果や課題を踏まえ、次年度は普通の授業での子どもの分かり方に注目したより有効なICT活用をめざしていきたい。

7 おわりに

平成22年度には県視聴覚教育研究大会の発表校に指定されており、各教室にICT機器が整備されていた。しかし、平成23年度の発表会が終わると、各教室に整備されていたICT機器は、市内小中学校へ配分され、本校にはほとんど残らない。これでは、研究発表会のためのICT活用になってしまう。また、ICT活用の授業に慣れてきた状態からICT機器がなくなることは、ICT機器活用の継続性の面でも非常に残念である。

そこで、平成23年度のパナソニック教育財団の研究助成は、ICTを活用した授業の継続を可能にする大変意義のあることであった。全教室に配備されだれもが使えるようになった今、いつでも、どこでも手軽にICT機器を活用している。自然な姿が見られている。

今後も、学校の生活基盤となる学習規律の定着を図り、より分かる授業、言語表現を豊かにした伝え合う授業を推進することを狙っていききたい。普段の授業でだれでもできる授業をこれからも実践して蓄積できることを願っている。

新しく赴任してきた教員も、「これならできる」「これは便利」「難しい」「だれでもできるのでは」と思ってくれるように研究を積み重ねていきたい。

2年間の研究を振り返ると、教員一人一人がICT機器を何気なく使い、授業に活用していたように思う。いつでも使えるように、常設されていることが活用の第一歩であることが分かった瞬間であった。その後、「どのように使えばよいのか」「何を見せたらよいのか」などの会話が職員室で聞かれるようになり、自然に研修会が始まることもあった。大きな研究会の時などは、吟味するものの、教科書研修として特別時間を作って開くことはあまりなかった。

大変だったのは、機器の故障である。修理費が大きいことと同時に修理完了までにかかり時間がかかることが毎日の授業をする教員にとっては不便なことであった。予備に1台用意はしてあったのだが、それが使用されているときには、不安で仕方がなかった。

2年間の研究を終えてほとんどの教員は、「ICT機器がない学校へ赴任したときはどうしようか」「今の内に自分で購入すべきなのだろうか」などと話している。それほどICTに親しむことができた私たちはとっても幸せな教員であろう。

< 参考文献 >

- ・東書わくわく算数 デジタル教科書
- ・光村書籍 国語デジタル教科書